

令和7年度（2025年度） 事業計画

【総括】

この数年、異常気象や紛争、働き方改革、円安などいろいろな要因により物価が高騰しデフレーションからインフレーションに変化してきました。それに加えて今年の2月にトランプ氏がアメリカ大統領に就任したこともあり先行きが不安な状態となっている。物価高騰により病院での設備投資などにも影響が少なからず出ていると思われる。また、近年の医療における問題点として挙げられているのが医療従事者の不足、働き方改革、高齢化社会、医療費の高騰、情報共有とデジタル化の遅れである。これらの要因により病院運営や医療の質の低下などが懸念されている。診療放射線技師としてもタスクシフト・シェアの推進や業務の効率化やDXの活用を検討していく必要がある。愛知県診療放射線技師会としても様々な情報提供を行っていきたいと思っている。

本会の事業に関しては2025年4月1日に公益法人法が改正され技師会として大きく関わる部分として、外部監事、外部理事の設置が必要になったことが挙げられる。ただ、外部理事については収入が3,000万円以下の公益法人は免除対象となり当会においては外部監事の設置のみが必須となった。外部監事は同業種以外の方に就任して頂くことになるので技師会運営において新たな息吹を吹き込んで頂けるのではないのでしょうか。私たちとしてもとても気が引き締まる思いである。

タスクシフト・シェアが実施されるようになってから4年が経過して2026年には学校のカリキュラムで履修された方が卒業してくる。そのため日本診療放射線技師会の告示研修も2025年度をもって終了予定となっている。愛知県で開催するもの最終年度となり例年通り12回の開催を予定している。2026年度以降については開催が不透明ですのでなるべく今年度中に受講して頂くことをお勧めする。

例年開催している県民公開講座ですが、今年度は日本診療放射線技師会と日本放射線技術学会が合同で開催しているJ-J市民公開講座が技術学会中部支部の担当となり愛知県で開催されることとなった。技術学会中部支部からの協力要請もあったので当会が実施している県民公開講座と合同で行う事とした。

当会が主催している研修会やセミナーの開催を今年度も会場型で開催する予定である。新型コロナ感染症が流行して以降、WEBでの研修会が多くなり自宅で自己学習が出来るようになり会場型での研修会等の参加人数は以前のような人数が集まらない。会場型で行うことで人との交流が図れるとも考えており、皆さんが会場型で参加をしたくなるような企画を検討する。

会員各位には、診療放射線技師にかかわる諸問題を十分に理解頂き、当会が実施する諸事業に積極的に参加していただき、組織運営に絶大なるご支援とご協力をお願いして、以下の事業計画案を提案する次第である。

本定時総会において皆様の十分なお審議をお願いする。

[1] 地域保健共催事業への参画

1) 地区医療放射線展の開催 (広報部)

各地域で開催される健康関連のイベントには、地区役員及び会員の協力を得ながら引き続き参加の予定である。各地での医療関連の催しについても本会作成のパネルの貸出や参加することで、地域住民の保健医療及び福祉活動にも積極的に関わり、放射線についての正しい理解と知識の普及啓発に加え、医療における診療放射線技師の役割や技師会組織についての理解も深まるようにする。

しかし、昨今の経済情勢により各地方自治体は健康関連イベント予算の縮小傾向にあり、さらに新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) 対応で、開催自体が危ぶまれている。本会としては柔軟に対応する予定である。

参加内容 医療放射線に対する正しい理解と知識の啓発

- (1) 医療放射線、医療被ばくに関するPRパネル展示
- (2) 各種臨床画像の供覧
- (3) 医療放射線に関する相談
- (4) 医療放射線検査のVTR放映
- (5) パンフレット〈医療用放射線Q&A〉の配布 等

① 西三地区医療放射線展

(刈谷市福祉・健康フェスティバル 2025 への参加)

期 日 令和7年10月 予定
場 所 刈谷市総合文化センター
対 象 刈谷市民他

他地区に於いても、地域保健共催事業に積極的に参加していきたい。

2) レントゲン週間のイベント開催 (広報部)

第18回県民公開講座

(第19回日本放射線技術学会・日本診療放射線技師会 合同公開市民講座)

期 日 令和7年9月28日 (日)
場 所 名古屋市立大学病院

[2] 診療放射線技師の資質向上に関する事業

1) 学術大会・研修会の開催 (学術部)

科学技術の急速な進歩は医療機器・関連技術にも大きな変化をもたらす。医用画像関係の技術革新は著しく、多様化する医療現場において診療放射線技師の果す役割と責務は一層重要となる。

患者さんはより高い医療と満足を求めて医療機関を選ぶようになりつつある。その中で診療放射線技師はどうあるべきか、医療人としての自覚と職業倫理が高揚できるような企画を考える。

③ 第26回新春セミナー（組織調査部）

期 日 令和8年1月 予定
場 所 ウィンクあいち
対 象 （公社）愛知県診療放射線技師会会員及び
愛知県在住及び勤務する診療放射線技師
目 的 診療放射線技師の生涯教育における初心者の放射線領域関
連技術、並びに全会員のための全人的教育の講演会の開催

④ ANTs（学術部）

期 日 通年 （3回～4回を予定）
場 所 本会研修室（又はWEB配信）
対 象 （公社）日本（愛知県）診療放射線技師会会員及び
核医学検査または研究に従事する診療放射線技師
目 的 診療放射線技師の生涯教育における核医学検査に関する関連
技術の習得及び最新の情報提供を目的とした講演会の開催

その他、本会会員及び診療放射線技師の資質向上に寄与する共催依頼があれば積極的に参画する。

5）（公社）日本診療放射線技師会認定事業・研修・セミナー等の開催
（執行部）

（公社）日本診療放射線技師会と呼応し、諸資格の認定講習会・試験、研修会やセミナー等を、会員皆様の参加しやすい形態にて、隣県との連携も考え、地方開催する。

6）地域の学術大会や研究会などへの参加（執行部）

研究発表を促し、シンポジスト等の派遣の依頼にも応え、会員の学術研鑽や研修の場として活用できるよう積極的な参加を呼びかける。

① 第17回中部放射線医療技術学術大会
（令和7年度 第33回 中日本地域放射線技師学術大会・
第59回 日本放射線技術学会中部部会学術大会）

期 日 令和7年11月15日（土）16日（日） 予定
場 所 鈴鹿医療科学大学
当 番 （一社）三重県診療放射線技師会
（公社）日本放射線技術学会中部支部

② 第66回東海四県診療放射線技師学術大会

期 日 令和8年2月15日（日） 予定
場 所 三重大学医学部附属病院
当 番 （一社）三重診療放射線技師会

7）後援事業について（執行部）

他団体が運営する医療関連の研修会・講演会など、本会の趣旨と合致するものについては、後援依頼があれば常務理事会に諮り後援する。

[3] 組織の充実・調査活動

1) 地区活動の推進 (組織調査部)

各地区との連携を密にし、地区総会や研修会の開催など地区理事を中心にした地区活動の強化をはかり、各地区の住民に対しては医療放射線展などを通し放射線の安全管理についての知識の普及や啓発活動を行い、地域医療の発展向上に寄与する。

期 日	通年
対 象	県下9地区 名古屋東地区、名古屋西地区、名古屋南地区、名古屋北地区 東三地区、西三地区、知多地区、尾東地区、尾西地区

2) 職場責任者会議 (マネージャー・サブマネージャーセミナー) の開催 (組織調査部)

各施設の所属長に対して技師会に関する理解と協力を要請し、技師会活動の活性化を図るとともに、本会の基盤強化及び情報交換の場を提供する。数年前から職場責任者会議 (マネージャー・サブマネージャーセミナー) とし範囲を拡げ、各施設の管理職のみならず、次世代を担うスタッフを対象としている。(会議を通して技師会への入会と開催行事への参加を促進する)

期 日	令和8年2月 予定
場 所	未定
対 象	(公社) 愛知県診療放射線技師会会員及び 愛知県在住及び勤務する診療放射線技師

3) Cherish の会について (女性委員会)

(公社) 日本診療放射線技師会が主催する女性活躍推進の活動と呼応し、本会でも女性技師が活躍できる会を設立した。令和2年より女性活躍推進班は業務改善推進委員会として引き継がれ、本会でも引き続き積極的な活動を進め、女性活躍推進の支援に努めるとともに、診療放射線技師の情報交換を通し、広義で職場環境を整え、働き方改革の推進にも寄与できるような有意義な委員会としていく。

期 日	令和7年8月 および 秋 予定
場 所	未定
対 象	(公社) 愛知県診療放射線技師会会員及び 愛知県在住及び勤務する診療放射線技師
目 的	診療放射線技師の生涯教育における放射線領域関連技術、交流を通じて職場環境・働き方 (改革) の可視化と講演会開催

[4] 発刊事業 (広報部)

通常総会をはじめ学術大会や研修会などの本会各種事業の案内、会務の報告、福利厚生、地区活動、会員の移動状況、その他の情報を伝える。

期 日 通 年
内 容 愛知県診療放射線技師会誌・・・2回
愛放技通信・・・・・・・・・・適宜

[5] 会員親睦行事の開催 (組織調査部)

新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) やインフルエンザ等の状況を考慮しつつ、会員相互の親睦を図る。

期 日 令和7年 秋 予定
場 所 未定

[6] 県技師会研修室について (執行部)

平成21年度に県技師会事務所の隣室を研修室として整備した。研修室は、会議 (理事会・各部会) ・研修会・講習会の会場として利用されている。今年度も公益社団法人として、診療放射線技師の技術向上を目的とした研修や技術習得の場として活用する。

また会員相互の研修会・勉強会などにも積極的な利用をお願いする。

[7] ホームページの拡充 (広報部・組織調査部)

ホームページを通して本会の情報発信を行う。公益法人として、県民への情報提供及び診療放射線技師をはじめとする医療関係者へ、有用なものとなるようにする。適宜会議を開催しホームページの内容を拡充する。

[8] 相談事業 (被ばく相談委員会・執行部)

「放射線被ばく」や「放射線関連検査・治療」に疑問や不安を抱える方に対して、正しい知識を伝え国民の健康増進に寄与するため、メールや地域医療放射線展などで相談に応じる。

[9] その他

以上の基本的事業のほか、会員の福利厚生に関する事項や (公社) 日本診療放射線技師会をはじめ関係諸団体や賛助会員からの要請等については、弾力的に対応する。

新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) やインフルエンザ等の状況を考慮し、あらゆる事業について、WEB 開催などの対応を検討する。

